

平成23年4月11日

物理チャレンジ・オリンピック日本委員会
委員長 有山正孝

第42回国際物理オリンピック (IPhO2011) タイ大会 日本代表決定について

物理チャレンジ・オリンピック日本委員会（委員長：有山正孝・電気通信大学名誉教授）は、第42回国際物理オリンピック（期間：2010年7月10～18日 開催国／都市：タイ王国／バンコク）に派遣する日本代表5名を決定した。

国際物理オリンピックは、1967年にポーランドのワルシャワで第1回大会が開催された物理の国際的なコンテストで、全世界80前後の国・地域から高等教育機関就学前の若者が参加し、物理学に対する興味関心と能力を高め合うとともに、国際的な交流を通じて参加国における物理教育が一層発展することを目的として、毎年開催されている。

わが国は2006年、第37回国際物理オリンピック IPhO2006 シンガポール大会に初めて日本代表5名を派遣し、以来毎年参加しメダルを獲得している。2009年の第41回国際物理オリンピック IPhO2010 クロアチア大会での成績は、銀メダル1、銅メダル3、入賞1であった。

今回日本代表となった5名は、昨年夏に岡山で行なわれた「第6回全国物理コンテスト『物理チャレンジ2010』」（応募者999名）において優秀な成績を収めたことにより日本代表候補者として選抜され、昨秋からのインターネットを利用した「理論問題・実験データ解析演習の通信添削」、冬休みに行われた「実験実習を主体とした合宿研修」、さらに春休みに行われた「最終選考合宿」を経て決定された。

5名は、引き続き国際大会参加に向けたトレーニングに参加し、今年7月の「第42回国際物理オリンピック (IPhO2011) タイ大会」に備える。

なお、2012年にエストニアで開催される第43回国際物理オリンピックの日本代表選考を兼ねる国内コンテストとして、今年「物理チャレンジ2011」が開催される。詳しくは、ホームページ <http://www.phys-challenge.jp> 参照。

第42回国際物理オリンピック (IPhO2011) 日本代表選手

氏名	フリガナ	性別	学校名 (所在地)	学年
榎 優一	エノキ ユウイチ	男	灘高等学校 (兵庫県)	1年
笠浦 一海	カサウラ カズミ	男	開成高等学校 (東京都)	2年
川畑 幸平	カワバタ コウヘイ	男	灘高等学校 (兵庫県)	2年
佐藤 遼太郎	サトウ リョウタロウ	男	秀光中等教育学校 (宮城県)	6年
山村 篤志	ヤマムラ アツシ	男	灘高等学校 (兵庫県)	3年

※ 以上5名 氏名50音順

＜この件についての問い合わせ先＞

特定非営利活動法人物理オリンピック日本委員会事務局
東京都港区新橋5-3 4-3 栄進開発ビル5F
社団法人日本物理学会内
TEL 03-3434-2674 FAX 03-3432-0997
担当：清田、曾根
E-Mail: jpho@jps.or.jp
URL: <http://www.phys-challenge.jp>

日本代表のコメント

榎 優一：

代表に選ばれたことに驚いていますが、選ばれたからには精一杯努力したいと思っています。大会ではベストを尽くし、他の選手との交流を楽しみたいと思います。

笠浦 一海：

日本代表として世界大会に出場できることを、大変うれしく、また光栄に思っております。大会を通して、個人として成長し、また、日本代表としてよい知らせを届けられるよう、精一杯努力いたします。

川畑 幸平：

このような場を与えてくださったことを感謝しています。自分の力を最大限発揮できるようにがんばります。

佐藤 遼太郎：

震災のため一時は諦めかけた選考会でしたが、なんとか出席することができ、また代表に選ばれとても嬉しく思います。大会は精一杯頑張ります。

山村 篤志：

今回2度目のオリンピック参加となります。今までお世話になった先生、先輩方に感謝するとともに、教えていただいたこと、自分で学んだことを最大限活用し、日本代表として恥じぬよう、ベストを尽くすことを誓います。

「国際物理オリンピック」について

国際物理オリンピックは、1967年にポーランドのワルシャワで第1回大会が開催された物理の国際的なコンテスト。各国から高等教育機関就学前の若者が参加し、物理学に対する興味関心と能力を高め合うとともに、参加国における物理教育が国際的な交流を通じて一層発展することを目的としている。科学・技術のあらゆる分野において増大する物理学の重要性、次代を担う青少年の一般的教養としての物理学の有用性に鑑み、開催国を持ちまわりとして毎年開催されている。国際大会の参加資格は、20歳未満でかつ大学などの高等教育を受けていないこと。

各国内で選抜された最大5名の代表たちが、大学・高校教員からなる引率役員（リーダー、オブザーバ）とともに参加する。約10日間という長い会期のあいだ、選手は理論問題・実験問題にそれぞれ5時間をかけて挑戦するほか、開催国の文化に根ざした様々なイベントに参加することを通じて、他国からの参加者や主催者と国際的な交流を深めることができるように構成されている。

近年の開催国／都市は、2004年韓国／浦項、2005年スペイン／サラマンカ、2006年シンガポール、2007年イラン／イスファハン、2008年ベトナム／ハノイ、2009年メキシコ／メリダ、2010年クロアチア／ザグレブ。参加国数は増加傾向にあり、クロアチア大会には、82カ国・地域から367名の代表が参加した。今年2011年はタイで開催される。

我が国は2006年の初参加より毎年代表を派遣し、メダルを獲得している。これまで5回の参加において、金メダル5名、銀メダル6名、銅メダル10名、入賞4名という成績をおさめている。

＜今回の大会＞

- 「第42回国際物理オリンピック（IPhO2011）」【開催概要】
- 会 期： 2011年7月10日～7月18日 9日間
- 開催国／都市： タイ王国 / バンコク市

＜前回の大会＞

- 「第41回国際物理オリンピック（IPhO2010）」【日本参加概要】
- 会 期： 2010年7月17日～7月25日 9日間
- 開催国／都市： クロアチア共和国 / ザグレブ市
- 参加国数／参加者数： 82カ国・地域 / 367名
- 結 果： 銀メダル1名 銅メダル3名 入賞1名

日本国内の物理コンテスト「物理チャレンジ」について

「物理チャレンジ」は、大学等に入学する前の青少年を対象として物理の持つ面白さと楽しさを体験してもらうことを目的とする全国規模の物理コンテストで、国際物理オリンピック日本代表選考を兼ねている。

「物理チャレンジ」は、ふたつの段階から構成されており、はじめの「第1チャレンジ」は、「理論問題コンテスト」と「実験課題レポート」からなる。理論問題コンテストは全国一斉の会場試験、実験課題レポートは自宅や学校で課題実験に取り組みそのレポートを郵送で提出する。

「第2チャレンジ」は、第1チャレンジにより選抜された70名が、夏休みに一堂に会する3泊4日の合宿形式のコンテスト。理論問題と実験問題についてそれぞれ5時間の試験を実施する。ここでは成績上位6名に金賞、続く12名に銀賞、続く12名に銅賞、さらに続く若干名に優良賞等を授与する。

第2チャレンジで優秀な成績をおさめた参加者から、翌年の国際物理オリンピック日本代表候補を10～15名程度選出し、5か月間にわたる通信添削、冬休み及び春休みの合宿研修等の教育研修を実施したのち、最終選考を行い5名の日本代表を決定する。

なお、第2チャレンジは、合宿形式のメリットを活かして、試験ばかりでなく第一線の物理学研究者との対話、最先端研究施設の見学、そして参加者同士ならびに参加者と実行委員である物理学研究者との交流を深める機会など含み、物理に興味を持つ若者にとって充実した4日間となる構成となっている。

今年開催の「物理チャレンジ」(国内の物理コンテスト)

第7回全国物理コンテスト「物理チャレンジ2011」

主催：物理チャレンジ・オリンピック日本委員会 (NPO 物理オリンピック日本委員会)

共催：日本物理学会 応用物理学会 日本物理教育学会 日本生物物理学会
電気学会 日本機械学会 茨城県 茨城県教育委員会 筑波大学
高エネルギー加速器研究機構 つくば市 つくば市教育委員会
つくば科学万博記念財団 岡山県 岡山光量子科学研究所 岡山大学
東京工科大学 全国高等学校文化連盟自然科学専門部 理化学研究所
科学技術振興機構 日本科学技術振興財団

助成：社団法人東京倶楽部

協賛：東レ 東京電力 日立 三菱重工業 アジレント・テクノロジー Z会

協力：J-PARC シュプリンガー・ジャパン 丸善出版 岩波書店

ミットヨ カルビー・アメリカ はるやま商事

後援：文部科学省

日 程

● 参加申込み受け付けは4月30日締切

● 「第1チャレンジ」 実験課題レポート (平成23年6月6日 提出締切)
理論問題コンテスト (平成23年6月19日 全国約70会場で実施)

● 「第2チャレンジ」 ※) 第1チャレンジから選抜された約70名が参加
会期：平成23年7月31日～8月3日 (3泊4日)
開催地：筑波大学
内容：理論及び実験問題(各5時間)、特別講話、研究施設見学、交流イベントなど
表彰：金賞(6名)、銀賞(12名)、銅賞(12名)及び優良賞(若干名)など

詳しくはホームページをご覧ください (<http://www.phys-challenge.jp/>)

以上